

いよゝか NEWS

vol.17
October 25 2019

●発行:日本ボーイスカウト東京都連盟 日野第2団 ●編集者:中村俊郎 ●住所:東京都日野市程久保4-7-14 ●ホームページ:<https://www.hino2.tokyo/>

創立50周年記念、 夏キャンプ特集!



創立50周年を迎えて

三指

B S日野2団・G S東京77団の皆さん、創立50周年本当におめでとうございます。

この50年の歴史の中で、大勢のスカウト達が様々な活動・奉仕を続け現在(いま)に至っていることは大変素晴らしいことです。

山中湖の記念キャンプも、皆とても楽しそうでしたね。リーダーや団委員、お手伝いのご父兄の方々も一生懸命でした。

「仲間通し助け合い、奉仕の精神を持ちながら楽しく活

動する。そして神様への感謝を忘れない」それこそがロワゼール神父様が創設された我々「サンタルーチェスカウト」の原点であり、今回OBの方々から贈られた記念のインディアン・ティピーはその象徴だと思います。

この先60年、70年と、このスカウトの輪が広がっていくことを心から祈っています。

あらためて50周年おめでとうございます。弥栄!

令和元年9月
ボーイスカウト日野2団
増岡 順

夏キャンプ in 山中湖 感想文

ボーイ隊 (イーグル班)

太田 智規

「夏キャンプで楽しかったこと」

ぼくが夏キャンプで特に楽しかったことは二つあります。一つ目は水プロです。水プロの前のいかだを組み立てたり、いかだがうくためのポリタンをつけるのは大変だったけど、丈夫ないかだができて それにみんなで乗れて楽しかったです。

二つ目は、サイクリングです。雨がふったりやんだりの天気だったけれど山中湖を1周できてよかったです。前の人とのきよりのかんかくを考えながら走って近すぎたりとおすぎたりしないようにしました。

ぼくは、このキャンプで楽しかったことや大変だったこともあったけれど、みんなで、協力して活動をやりとげたりしていいキャンプになったと思います。

ボーイ隊 (コブラ班)

石田 大智

「夏キャンプの感想」

僕は、8月10日から8月15日までの間、山梨県山中湖村にある村営山中湖キャンプ場で行われた日野二団50周年記念合同キャンプに参加しました。今回のキャンプは合同キャンプということでガールスカウトとビーバー隊からローバー隊までが同じキャンプ場に集まり、活動をしました。このキャンプで一番印象に残った日は8月13日でした。8月13日には、ガールスカウトとビーバー隊からローバー隊までを4つの班に分けて班ごとにカレーを作りました。僕の班では、火起こしや調理などの担当に分かれて、料理をしました。班員みんなの協力でおいしいカレーを作ることができました。みんなでおいしくカレーを食べた後には、全体でキャンプファイヤーを行いました。先程のカレーを作る途中の空き時間で班ごとにキャンプファイ

ヤーのスタントを考えました。みんなが知恵を絞って出した様々な面白いスタントが見られました。キャンプファイヤーが終わった後「今日はとても充実していたな」と思いました。幅広い学年で交流することはとても楽しいのだなと改めて思いました。

ボーイ隊 (コブラ班)

中村 東馬

「夏キャンプ」

今回の5泊6日の夏キャンプで僕は学んだことがあります。それは人のアドバイスを素直に受けることです。

その良い例として残り2日から降った雨の対策をしなかったことが挙げられます。

雨が降る前日のG B会議で翌日から雨が降ると言われていたのに、その後何も対策をしなかったのが、翌日の早朝5時から食堂フライを建て直すハメになりました。

この例から、アドバイスをもらうだけでなく、その先の事態を予測するということが大事だと思いました。

ボーイ隊 (イーグル班)

竹平 和玄

「夏キャンプの思い出」

夏キャンプ スタート

一日目:今日は、とてもよい天気だ。親に見送られ、いざ、キャンプ地へ。電車の中では、しりとりをした。バスにも乗って、やっと到着。入口から、サイト近くの休けい場所までの道のりは地獄だった。

二日目~五日目:いかだ作りでは、角しばりがはやくできるようになった。三日目は、湖の水が温かくて、気持ち悪かった。四日目のハイキングは、夏キャンプの中で、一番楽しかった。すべりそうな道、急な道など、色々な道があった。山頂で食べたカップラーメンは、とてもおいしく思えた。ハイキングで、何度も地図を見たから、地

図がボロボロになった。五日目のサイクリングは、雨だったし、自転車がマウンテンバイクやロードバイクではなかったの、少しがっかりした。でも、乗れただけよかった。

六日目:五日目と六日目は、班が五人から二人に減ったが、片付ける時などは、ベンチャー三人とリーダーに手伝ってもらって、六人になって、ありがたかった。

帰りの電車の中で、友達と座り心地のいいリュックに座って話をした事が楽しかった。

このキャンプで、僕は、色々なことができるようになった。だから、これからも、いつもの活動や、日ごろの生活で、使っていきたい。次のキャンプが楽しみだ。

ボーイ隊 (イーグル班)

片山 優

「夏キャンプ」

僕は、このキャンプではじめて班長をやった。班長は、想像以上に大変だった。

班長は、全体を見て行動しなければならない。また、大まかに言っても人は動いてくれないから、細かく、具体的に言う必要があった。それが難しい。その指示に時間をかけすぎると、他の人への指示がいかない。休みがない。常に全体を見ることが必要な役割だった。

また、指示がうまくできたとしても、失敗することだってある。こぼしたり、やり間違えたり、落としたりする。そうするとまた遅れてしまう。これがなかなかできなかった。一日目も二日目もこれに間に合わず、なんとか三日目に時間通りにできた。

今回のキャンプで、時間の使い方を直したと思う。日常生活でも、上手く順序を組み立て、仕事をこなしていきたい。

ボーイ隊 (コブラ班)

向山 留以

「夏キャンプ」

一年一回の夏キャンプは楽しかったり、辛かったりしました。ぼくは、五泊六日のキャンプなのははじめてで、長くキャンプをするのがにがてで、三泊四日にしてもらいました。

三泊四日だけでも、いろんな楽しいことがありました。

一日目は、親とわかれるのはさびしかったけど、これからキャンプをすることが、ドキドキ、ワクワクしました。最初についたら、A型テントを立てるのが、とてもめんどろでした。

二日目は、たのしいよりも、とてもつらかった日です。なぜなら、ポリタンを四回も運んだからです。夜も暑くてねれませんでした。

三日目は、朝早く起きて、火つけをほめられ嬉しかったです。あとは、二日目に作ったいかだを山中湖でうかべて、すもうをとったことが楽しかったです。

四日目は、ぼくにとって最後の日。七時からハイキングに出発！とちゅうにとまって白砂くんが登ってくるのをまつのが数回あって 昼めしを食べました。その後に温泉に入りました。つかれがとれました。その後五十分時間があるので、アイスやポテトフライを白砂くんがくれました。これが、三泊四日のキャンプでした。



カブ隊

千葉 裕也

「キャンプの感想文」

ぼく達のキャンプはみんなで最初に高尾駅に集まった。

一日目は、ぼく達がキャンプをする村営山中湖キャンプ場に向かうそうぼく達は山梨県の山中湖の近くでキャンプをする。長い道のりをかけてキャンプ場に向かった。キャンプ場に着くと、まずみんなでお昼ご飯を食べておなががいっぱいになってエネルギーをほきゆうしたところで みんなおまにかね山中湖をサイクリング アイスを食べたりして楽しくサイクリングをしてつかれたこともあったけど みんなでかんぼって安全にサイクリングを終えキャンプ場にもどり しばたさん大竹さん田中さんが作ってくれたご飯をみんなで準備して「いただきます」をしました。それでシャワーをあびて夜プロでみんな班ごとに山中湖の地図を書いてゴールデンバー会議をして9時半に消灯しました。

二日目はいつもと違い山を登るので5時半起しようでした スカウトオンをやって朝食を食べてセレモニーをして二日目の本題の山登りを車で登山口まで行って登山スタートと思ったら指令にもあった地ごくの階段があり、まさかの開始 20分程度でみんなバテバテでした。がんばって約1時間半で石わり山のちょうじょうでした。それから上り下りをくりかえし いいもり山のちょうじょうを求めて歩き続けていいもり山のちょうじょうに着いたときには4このいただきをとおっていました。つかれたあとは、みんなで温せんでした

そこからキャンプ場にもどり ごはんを食べて地図の続きを書いて9時半に消灯し登山のつかれをいやしました。

三日目は、みんなが一番楽しみにしていたら山中湖でバナナボートでした 最初はスワンなどで遊んで組で分かれてバナナボートをやって落ちた組もあれば落ちなかった組もあり、最後はスイカわりをしてリーダーがわっ

てしまいましたが おいしくいただきキャンプ場にもどりチームを決めてベンチャーボーイカブビーバーがまざってカレーを作ってキャンプファイヤーをしてすごく楽しかった三日目が終わりました。

カブ隊

小林 欣市

「山中湖でキャンプ」

一日目は、高尾駅から電車とバスを使って山中湖村営キャンプ場まで行きました。そのあと、着がえて、自電車に乗って山中湖を一周しました。そのとちゅう隊長にアイスぼうを買ってもらいました。十三キロ走りました。

二日目は登山プロの日でした。この日はいろいろな山を登りました。足がとてもつかれました。大平山でお昼ごはんを食べました。お昼ごはんはチーカマとおにぎりとたくあんでした。とてもおいしかったです。その後下山した後は温泉に入りました。温泉の名前は山中湖温泉紅富士の湯です。

三日目は湖遊びと合同ミサなどでした。まず、合同ミサで高木神父様のお話を聞きました。高木神父様はいろいろなことを教えてくれました。

その後は、湖に遊びに行きました。湖ではまずいろいろな遊具で遊びました。その後バナナボートに乗りました。ガールスカウトは落とされましたがぼくたちは落とされませんでした。すごい残念でした。

その後は合同カレー作りでした。カレーはすごくおいしかったです。

そしたら、合同キャンプファイアでした。今回は萩原大地リーダーがしきってました。みんな出し物をやりました。全部おもしろかったです。

四日目は帰ります。これが2019年度の夏キャンプでやったことです。



カブ隊

傳田 美来

「キャンプで楽しかったこと」

わたしは、このキャンプに行き、楽しかったことは、四つあります。

一つ目は、サイクリングのことです。キャンプでサイクリングをして、山中湖を一周して 13km 走ったのが楽しかったです。

二つ目は、登山のことです。ハイキングでは、何とも山を登ったり下ったりしたけどいっぱい汗のせいで楽しかったです。あと最後には、温泉にも入れたので楽しかったです。

三つ目は、湖で遊んだことです。湖でボートにのっておちたり、バナナボートにものってみんなで、カメラめせんむいたから、さかさまにおちたけど私はおちたかったので楽しかったです。

四つ目は、キャンプファイヤーのことです。キャンプファイヤーで「うちゅう人よこい」などいろいろ歌ったりおどったりして、楽しくすごせました。

五つ目は、わたしのたん生日をわったことです。わたしは、キャンプに行く前に大竹さんにチョコレートケーキが食べたいといたので食べれたのだと思いました。あとシュークリームも食べれたので楽しかったです。

今年のキャンプは、楽しいことがいろいろあったので楽しかったです。



カブ隊

柴田 乃衣

「ボーイスカウト五十周年キャンプ」

1 日目、電車でキャンプ場にいていたとき、ある男女にあってお話するのが楽しかったです。そして初めて 13km という長いきよりをはしたけど、つかれるというよりも楽しかったというきもちの方が自分の中では大きかったです。

2 日目、この日はハイキングをする日。リーダーやたいちょうの車にのって山のちかくまでおくってもらったら、とりいを出てすぐ四百三だんのかいだんをのぼっていたら、ミヤリーダーがラクにのぼる方法をおしえてもらったら本当にラクに行けました。ちがうところにもかいだんがあったので こまめにきゅうけいをとって四つの山をのぼって さいごはひとりでした。ちゃんとのぼりきりました。つかれたときのごはんはすっごいおいしかったです。

3 日目、ついにあしたがいしゅう日、みずぎにきがえたら、あるいてみずうみまで行ってライフガードをかりたらカヌーなどをして、大きいうかぶぶつたいにみんなのって、それでも楽しかったのですが、私がいしづかたいちょうをよんだらもっと楽しかったです。たいちょうがみんなをおとしていって、たいちょうが「これはおれのふねだあ！！ハアツハアハア！！」と言っていました！ そのあと、

BananaBoat にのって、すごく楽しかったのですが やっと大きいなみにのれると思ったら、おちてしまいました。そしたら男子の番になって私たちが、ふねにのったら、ふねをうんでんしていた男せいが おちたほうがいんしょうにのこるからいいのにね！？とおしえてくれました！ 男子たちはおちませんでした。あしたがいしゅうびなのにななこちゃんはねつになってしまっ

てカレーもつくれなかったし CampFire も出れなかったのです。前の日からねるときにせきをしていました。

カブ隊

丸川 凧

「カブキャンプ夏」

一日目は じてんしゃをかりてみずうみみて こはんを食べてねた。

二日目は やまにのぼってきれいなけしきを見て せんとうに入ってゆったりした。

三日目は あさおきてサンドイッチのレタスばくぐいして そのあとゴリラボートにのって友とでんださんをおしておもしろかった そのあとにバナナボートにのったらサイコーだった そのあとボートにのって日なたぼっこをしてから よるごはんをたべてねた。

さいごにめちやくめちやくちゃきつい作文をやった。



カブ隊

佐々木 智朝

「ボーイスカウトのキャンプ」

ぼくが、キャンプで楽しかったことは、三つあります。一つ目はサイクリングです。山中湖を一周しました。広場でアイスを食べました。おいしかったです。二つ目は水プロです。バナナボートに乗りました。気持ちよかったです。三つ目はキャンプファイヤーです。なぎくんといっしょに いしづかたい長のモノマネをしました。楽しかったです。他のはんの出し物も見ました。全部楽しかったです。夏休みのキャンプはとても楽しかったです。これで終わりです。



カブ隊

桑原 大瑚

「カブ隊最後のキャンプ」

ぼく達が行ったキャンプの場所は山中湖の近くの山中湖キャンプ場です。

最初はみんなでカブべんをたべました。

その後山中湖の回りをサイクリングをしました。なんと山中湖の回りは十三kmです。

サイクリング中白鳥を間近で見ることができました。とちゅう広場でアイスを食べました。その時とても暑かったのですごく美味しかったです。広場の水道で頭を洗いました。とても気持ちよかったです。1日目はサイクリングも楽しかったのですが夜ごはんも美味しくて楽しかったです。メニューはシチューです。具材も沢山入っていました。夜プロは山中湖の回りの地図を書きました。1日目は山中湖を書きました。

2日目は4つの山を一気に登りました。

登った山は石割山、平尾山、大平山、いいもり山です。大平山で昼ごはんのおにぎりを食べました。とても美味しかったです。その後は温せんでした。ろてんぶろなど沢山のふろがありました。でも じゅうたいでバスがなかなか来なかったです。やっと来て帰ってくることができました。ごはんは鉄ばん焼きでした。とても美味しかったです。夜プロは地図の続きでした。

3日目は水プロでした。雨もふったのでどうなるかと思いましたが なんとかできました。スワンボードや大きなサーフボードのような物で遊びましたが、一番楽しかったのはバナナボートでした。ボートにひっぱられてすごく速く動くボートです。男と女のチームにわかれましたが女子は落ちたけど男子は成功しました。その日成功したのは2組だけだと言っていたのでうれしかったです。夜は日野2団のそうりつ五十周年でカブビーバーボーイベンチャーガールでカレーやキャンプファイヤーをしました。カレーは量がそん

なになかったけど美味しかったです。キャンプファイヤーは各組がスタンツを考えて発表しました。ぼくたちはA班で「いい波のってんねー」ゲームをしました。フルーツバスケットで動くのを動かないで「いい波のってんねー」と言います。他にもモノマネや〇×クイズもありました。3日目の活動も終わりです。今回のキャンプでは組長としてということを考えました。なので最後のキャンプはとてもけいけんになっと思ったと思います。

カブ隊

花田 希実

「カブ隊キャンプ」

一日目ががんばったことは、自転車に乗ったことです。たのしかったことも、自転車に乗ったことです。しっばいしたことは、自転車に乗ってころんだことです。

二日目ががんばったことは、登山です。去年のキャンプに登った山のほうが楽しくて、今回登った山は、少しつまらなかったです。

三日目に、たのしかったことは、ゴリラボートです。しっばいしたことは、バナナボートに乗ったのに、落ちなかったことです。落ちなくてつまらなかったです。

カブ隊

いとう すみか

「楽しかったキャンプファイヤー」

ぼくは、キャンプファイヤーでたのしかったのは、三つあります。一つ目は、ゲームでいいなみのっちゃってというゲームをしてみんなでもりあがれました。

二つ目は、山中湖のバナナボートにのりました みんなふんばったので山中湖におちませんでした。三つ目は、サイクリング中は、風がそよそよあつてきもちよかったです。あせをかいたあとのシャワーがきもちよかったです。

カブ隊

石森 圭登

「カブ夏キャンプ」

僕はカブの夏キャンプの三日間の出来事を書く。

一日目、サイクリングで、黒いファミマと白鳥に神社以外何もなかった。アイスは美味かった。

二日目山登りはキツすぎるので おそくなった。原因は、一、暑さ 二、足の痛み 三、はらのへりが原因でおそくなった。ハイチュウは美味しかった。

三日目、湖の遊びはバナナボートは酔ってのらなかった。はっきり言ってすごくうれしい。(落ちたくなかった)

ウエイトボードでは水の中で体がおさえつけられてあぶなかった。

カヌーだけたのしかった。

もう帰りたい。

(このころの時こく 2019年8月13日 9:57)



50周年記念特製インディアン・ティピーを製作しました

ボーイスカウト日野2団・ガールスカウト東京77団の創立50周年を祝い、OB・OG・リーダー有志の方々から「特製インディアン・ティピー」の贈呈がありました。



【ティピーとは？】

「ティピー」とは、北アメリカの平原に住み、バッファローや鹿など狩りを主生活の手段としていた狩猟部族のインディアン（ネイティブ・アメリカン）が住居として使用していた移動式テントのことを言います。

英語では【tipi・tepee】と表記されます。

インディアンの言葉でティピーの「ティ」は「住む」「ピ」は「使う」という意味があり、文字通り「インディアンのお家」を表現しているというわけです。

構造は横から見ると三角テントのように見えますが、底面が円形の「円錐（すい）形」です。

放射状に組み上げた骨組みのまわりに幕体となる布を巻き付けて完成します。もともと幕体にはバッファローの皮をなめし、つぎはぎをしながら大きく広げたものを利用していましたが、今回贈呈したティピーはコットン風合い/UV加工の防水生地を使用しています。

【今回贈呈ティピーのスペック】

- ・床面直径 : 最大4.2m
- ・床面積 : 約13.8m(約8.5畳)
- ・高さ : 約4m(14本のポールを使用します)



【正面入口側】



【裏側】

全体的に日野2団の記章とネッカチーフをモチーフにしており、「SANCTA LUCE SCOUTS」の赤い文字を大きくあしらっています。デザインは団委員の市毛さんが何度も案を練り直してくれて決定しました。

※怪しい服装の人は、今回の発起人であり、キャンプでの贈呈式でインディアンに扮してプレゼンターを務めてくださった某渡邊さんです。(化粧までしています)

夏キャンプ内で贈呈式が行われました。
贈呈式にはインディアンの酋長の格好をしたOBの方々が、式典を大いに盛り上げて下さいました。



日野2団 OB/OGの皆様

2019年9月吉日

日野2団団委員
増岡 順

50周年記念合同夏期キャンプのご報告と御礼

三指

まだ残暑が厳しい日が続きますが皆様お元気でしょうか。

日野2団ボーイスカウト、東京77団ガールスカウト隊は、創立50周年の記念夏期キャンプを山中湖村営キャンプ場にて無事に開催することができました。

今年は比較的天気にもめぐまれ、スカウト一同ハイキングや湖でのボート遊び等のプログラムを大いに楽しみ、大きな事故もなく無事に終えることができました。

また、今回の合同記念キャンプにつきましては、OB・OGの皆様から多大なご支援を頂戴しました。

- ①夏期キャンプへの寄付 ¥46,000（5/19「ワゼール神父様を囲む会」におけるカンパ）
- ②50周年記念 特製インディアン・ティピーの贈呈費用（有志の皆様からの寄付金にて購入）

①につきましては今回キャンプの運営費用として有り難く使用させて頂きました。

②につきましては、今回のキャンプサイトで贈呈式を行い、さっそく組み立て利用させて頂きました。

キャンプや贈呈式の様子は、日野2団のホームページ等で写真や動画を閲覧可能です。

どうぞアクセスしてご覧頂ければ幸いです。

- 日野2団ホームページ URL：<https://www.hino2.tokyo/>
- 熊田BS隊長作成「ゲールアルバム」 URL：<https://photos.app.goo.gl/rrvfXswfUTUZ3MrG8>

また、団を代表して、鈴木団委員長と熊田BS隊長からお礼のメッセージを頂きました。

皆様からの寄付・ご支援に改めて深く感謝申し上げますと共に、今後のスカウト活動を是非気にかけて変わらぬ応援を頂戴できれば幸いです。

本当にありがとうございました。

以上

団代表からのお礼のメッセージ

『インディアン・ティピーいただき、ありがとうございました。』

ボーイスカウト日野第2団が発団して50年になります。1970年4月に発団していますので、準備は1969年から始まっていた。ロワゼール神父様がメルセス会の修道院司祭として着任した時です。サンタルーチェ・スカウトという素晴らしい名前もいただきました。それから、今日まで多くの方々のご支援があり、今日を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

また、この度は「インディアン・ティピー」をいただきまして、ありがとうございます。沢山の皆さまの「日野2団頑張れ:弥栄」という心温まる思いをいただきました。

インディアン・ティピーは輪になって座るようになっていきます。日野2団のスカウト・指導者も活動の中心にサンタルーチェ(聖なる光)を置き、それを囲んで語り合い、前進していきます。

今後とも、よろしくご支援の程、お願い申し上げます。

感謝の心をもって

2019年9月

ボーイスカウト日野第2団 団委員長 鈴木 英彦

『ティピーのもとにスカウトが集う野営をしたい』

ボーイスカウトの指導者をしていると、夏季野営とはつくづく特別なものであると感じます。

最初はバラバラで思い通りにならない苦労を嘆きあっていたスカウトたちは、互いを補い合える仲間同士になり、1つの班として機能するようになります。野営の最後に撤営を開始するその瞬間、日々改善して作り上げた班サイトは、スカウトたちにとって自分たちの苦労と団結の象徴のように写っていることでしょう。

この度いただいたインディアン・ティピーは、日野2団の50年にわたるスカウト活動とそれに携わったたくさんの方々の熱い想いの象徴のように感じます。

今後は、ティピーのもとにスカウトたちが集い、日野2団という大きなチームの一員なんだと実感できる、そんな夏季野営をしていきたいです。

素晴らしいテントをありがとうございました。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。弥栄

2019年9月

ボーイ隊長 熊田英峯

今回のティピー作成・贈呈にあたり、計42名のOB・OG、現役リーダ有志の皆様から多大な寄付を頂戴いたしました。

改めて深く御礼申し上げます。

当日は寄付頂いた皆様のお名前を記載した「贈呈状」を現隊リーダにお渡ししました。

本当にありがとうございました！



贈呈状

ボーイスカウト日野2団・ガールスカウト東京77団の創立50周年を祝し、特製インディアン・ティピー一式を贈呈いたします。是非積極的にご活用頂き、今後のスカウト活動がより楽しく充実したものになりますよう心からお祈りいたします。

令和元年8月12日
ボーイスカウト日野2団
ガールスカウト東京77団 OB・OG・リーダ有志一同

【寄付者一覧】(敬称略)

浅井明、安藤智樹、石塚武司、磯野清英、磯部知典、市毛俊幸、市ノ瀬英臣、韓保直人、上羽綾一、遠藤正和、大木重雄、小沼尚文、川原聡、小池健一、小泉幸雄、小林直人、柳村一歩、柳村正彦、近藤聖矢子、島田康、島村孝成、志村洋、志村肇、鈴木英彦、鈴木陽一、鈴木清美、中島徹、仁賀田康、仁賀田元、花田博光、細谷美知子、細谷英敏、細谷洋行、細谷浩成、坂野裕司、増岡順、増田順、三國啓祐子、三國啓洋、山口亮貴、渡邊昭博、渡邊博隆
(令和元年8月9日現在)